

ゆいちゃんはシラタガリン!! 作務衣を着てみたら? 星木レイ



浄土宗コドモタイムズ

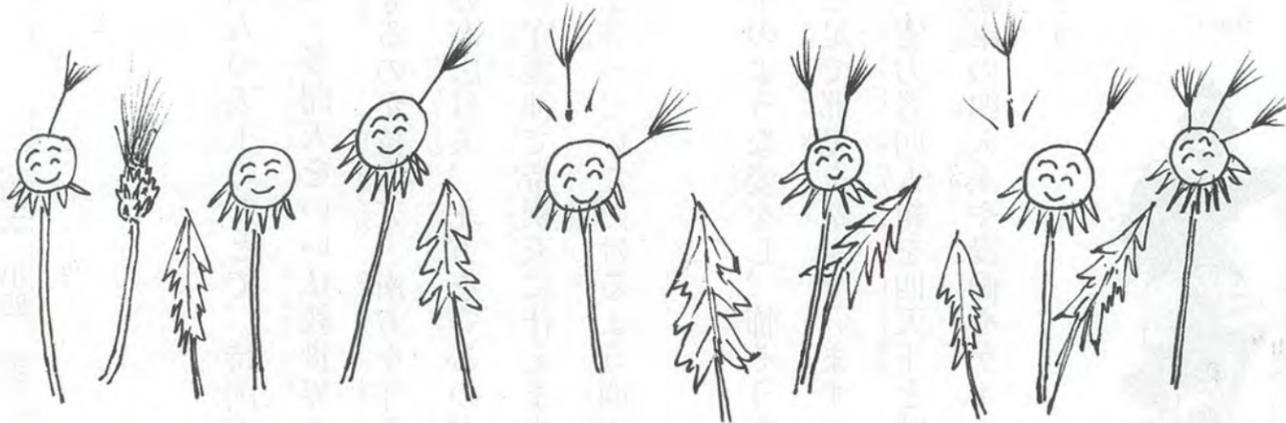
第59号

発行 浄土宗児童教化連盟

発行人
 三宅 明信
 〒833-0013
 筑後市北長田706-2
 林鐘院内
 TEL 0942-52-5524
 FAX 0942-54-1189

タンポポ

タンポポ ポポポポ
 ハゲぼうず
 ワタゲをとばして
 わらつてる
 野の細道
 あったかく
 タンポポ ならんで
 わらつてる
 くしゃみがでるほど
 花ふんとび
 あったか野の
 細道に
 タンポポ ポポポポ
 ハゲぼうず
 ふあふあ ワタゲが
 またとんだ



詩・絵 今井康隆

仏教と植物

「無憂樹」

アシヨカ樹ともいいます。アシヨカとは古いインドの言葉で訳すと「憂いが無い」という意味です。インドやマレーシア、ミャンマー原産の木で、花は5〜7センチほどのきれいなオレンジ色をしています。インドでは悲しみを知らない木、悲しみを無くす木として敬われています。

お釈迦さまのお母さまであるマヤー夫人は、出産のため故郷に帰る途中、休憩のためにルンビニー園（今のネパールにありました）に立ち寄りしました。そこには大きな無憂樹があつて、色あざやかに良い香りを放っていました。マヤー夫人が近づくと、自然に枝がたれ下がりました。夫人は思わずその花にさわろうとした時、右の脇からお釈迦さまがお生まれになったのです。

ナムナム 質問箱

質問

四天王って何ですか。

(埼玉 小四 男子)

答え

四天王とは四人の天王のことで、持国天・増長天・広目天・多聞天をいい仏教世界の四方を守ります。東方を守るのが持国天、南方を守るのが増長天、西方を守るのが広目天、北方を守るのが多聞天です。天王は仏教の守護神で帝釈天に仕えます。お寺の中にも仏さまを守っていただけるよう四天王がまつられています。

四天王はそれぞれ武士のような姿をし、怖そうな顔つきをしています。また足で邪鬼を踏んでいます。またすぐれた力を持つ実力者四人組を四天王と呼ぶことがあります。徳川家康の四天王や漫画やゲームでも〇〇四天王が登場します。



広目天



持国天



多聞天



増長天

「昔の子どもの遊び」④

みなさんは何をして遊んでいますか。スマホやゲーム機、カードゲームなどですか。遊びは時代によって変わってきます。昔はどんな遊びがはやったのでしょうか。

今回は明治・大正・昭和時代の子どもの遊びを紹介します。



チャンバラごっこ

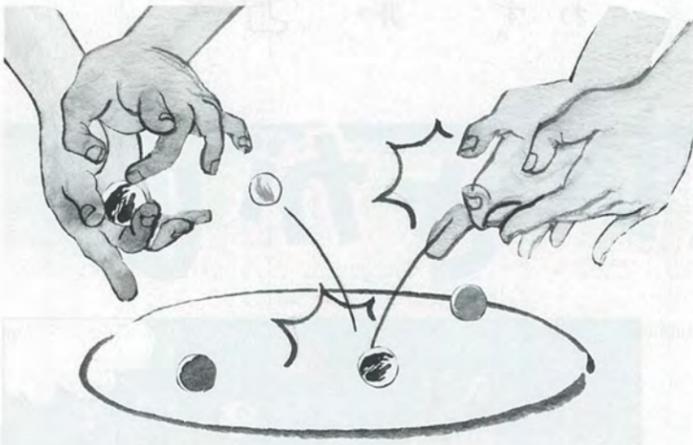
時代劇の中で武士が刀と刀で戦い合うシーンが出てきます。チャンバラは木の棒や木刀を刀代りに相手と戦う遊びです。でも本気でたたきあうのではありません。棒が当たる前に止めてケガをしないようにしていました。

また新聞紙を細長く丸めたものを刀の代りに使っていました。

今はスポーツチャンバラといって、エアソフツ剣という武器を使って試合をするスポーツに進化しています。

ビー玉

ビー玉は飲みもののラムネの中に入っているガラス玉のことですが、このビー玉を使って遊びました。ビー玉はすきとおったもの、カラフルなもの、ミルク色などいろいろあります。



遊び方はいろいろあります。

指でビー玉をはじいてビー玉をぶつけ合う遊びです。

目玉落としは、目の高さからビー玉を落として、下に置いてあるビー玉に当てる遊びです。

天国と地獄はビー玉を指ではじいて順番に穴に入れていくというゲームです。

めんこ(面子)

最初はなまりで作られました。その後紙の



めんこができ、地面に打ちつけて相手のめんこをひっくり返すという遊びが広がりました。

めんこの表面には、その時代の人気のあるいろんなキャラクターが描かれています。昭和の時代でいうとスポーツ選手だったり、ヒーローや怪獣の絵が多かったです。

ベーゴマ(貝独楽)

ベーゴマは小さなコマで、大正時代のころから遊ばれてきました。ベーゴマの本体にひもを巻きつけ、そのひもを一気に引いてコマを投げます。

何人かで遊ぶ時は、だれが一番長くコマを台の上で回転させるかを争ったり、だれかのコマをはじき出すかを競い合います。



イラスト 一色真由美

これも仏教の言葉だよ!

「皮肉」



皮肉とは相手の欠点や弱点を遠まわしに非難したりからかったりすることです。

皮肉は「皮肉骨髓」がもとになっています。意味は体の皮と肉と骨と髓(骨の中心のやわらかい部分)ということです。

中国の達磨大師が修行中の弟子に質問をし、その答えについて評価をしました。

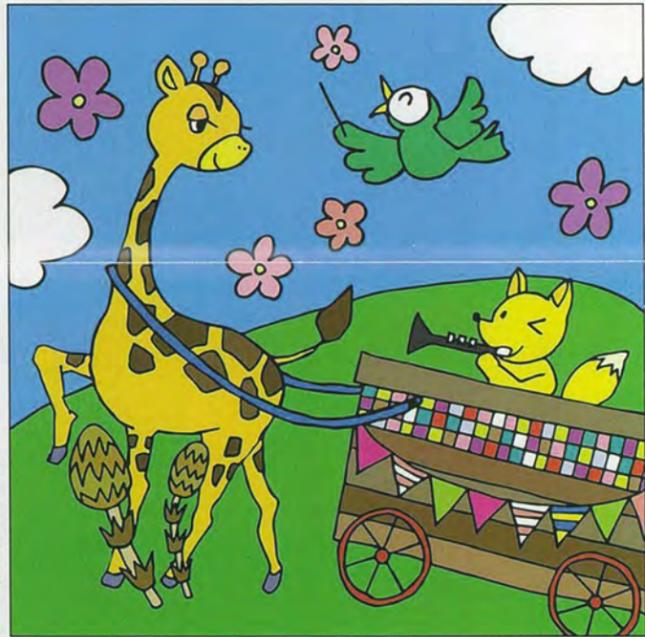
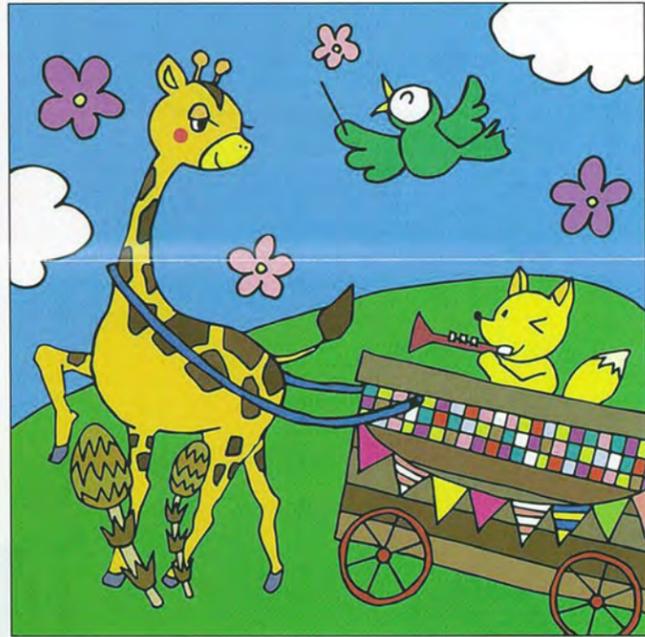
一人目の弟子が達磨大師に答えを伝えたところ、「我が皮を得たり」と言われました。二人目の弟子は「我が肉を得たり」と言われました。三人目の弟子は「我が骨を得たり」と言われました。四人目の弟子は「我が髓を得たり」と言われました。

骨と髓は大事な要点ということで、物事の本質を理解しているというたとえで、皮と肉は表面にあることから、本質を理解していないというたとえです。つまり皮と肉といわれた弟子は、表面は理解しているようでもまだ教えをよく理解できていないと遠回しに言われたということなのです。

このことから遠まわしに相手を非難することを皮肉というようになりました。

ちがいがし

みんなよう
考えよう



絵:岡本こずえ

右の絵と左の絵の違いを5つ見つけてください。
ハガキに答えを書いて左記まで送ってください。正解者の中から抽選で30名に記念品をお送ります。記事の感想や意見もいっしょに書いてくださいね。
しめきり6月30日です。

送先
〒833-0013 筑後市北長田706-2 林鐘院内 浄土宗児童教化連盟事務局
TEL 0942-5215524
FAX 0942-541189



前回の答え

お知らせ

みなさんからの記事を待っています。学校でのこと、家の中のこと、家族のこと、友だちのことなどを書いて送ってください。またみなさんからの作品も待っています。絵や作文、お習字など何でもけっこうです。

送先は 〒833-0013 筑後市北長田706-2 林鐘院内 浄土宗児童教化連盟事務局
TEL 0942-5215524 FAX 0942-541189

感想もいっしょに書いてくださいね。

ぶくぶく編集室



新型コロナウイルスの感染が広がっています。多くの行事が中止や延期になりました。三月に入って多くの学校が休校になりました。人が多く集まるところへは行かないと言われたのではないのでしょうか。

ウイルスは目には見えないので、どこにいるのかわかりません。その分不安が増します。インフルエンザも同じように人から人へ感染しますが、予防接種や治療薬があるのでまだ安心感があります。でもコロナウイルスに感染してしまったら、今のところ治療薬がないようなので余計に不安が広がります。

早く終息して普通の生活に戻ってほしいですね。